

2021年12月1日

**ウェザーニューズ、都道府県ごとの花粉飛散時期とピークを発表**  
**スギ花粉は2月上旬に九州・関東などから飛散開始、飛散量は平年並**  
**飛散ピークはスギ花粉が2月下旬～3月中旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬**

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区 代表取締役社長:草開 千仁)は2022年の花粉シーズンに向け、「第二回花粉飛散傾向」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。

2月上旬に九州、四国、中国や東海の一部、関東でスギ花粉の飛散が始まり、2月中旬には西日本・東日本の広範囲、また東北南部でも飛び始める予想です。2月下旬になると北陸、3月上旬には東北北部でも飛散が始まるとみえています。飛散ピークは西日本・東日本の広範囲でスギ花粉が2月下旬～3月中旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬の予想です。

飛散量は平年並となるエリアが多い予想です。2021年と比べると、北日本や北陸で多く関東や東海では同程度、西日本では少ないエリアが多い予想です。2021年よりも飛散量が多くなるエリアでは、花粉症の症状が重くなるおそれがありますので、対策をしっかりと行ってください。

✓ポイント

1. 2月上旬に九州、四国、中国や東海の一部、関東でスギ花粉の飛散開始
2. 飛散ピークはスギ花粉が2月下旬～3月中旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬
3. 飛散量は広範囲で平年並も、北日本や北陸では2021年より多い予想

本プレスリリースの素材のダウンロード	「第二回花粉飛散傾向」の一般向けサイト
ウェブ版プレスリリース「第二回花粉飛散傾向」 <a href="https://jp.weathernews.com/news/38203/">https://jp.weathernews.com/news/38203/</a>	ウェザーニューズウェブサイト「第二回花粉飛散傾向」 <a href="https://weathernews.jp/s/topics/202111/290165/">https://weathernews.jp/s/topics/202111/290165/</a>

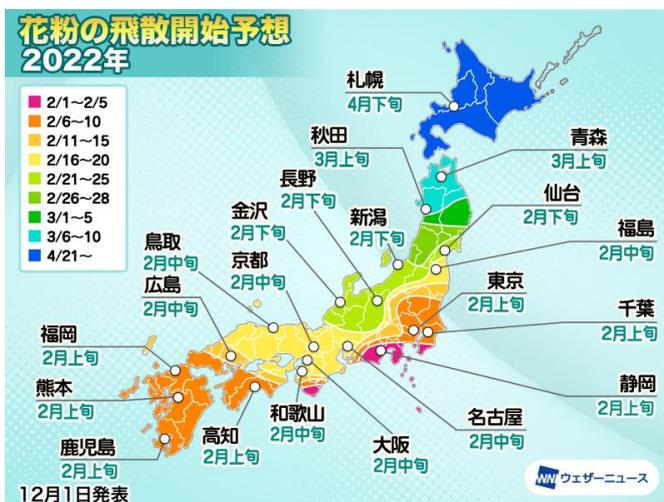
◆ 2022年「第二回花粉飛散傾向」

＜飛散開始時期:2月上旬に九州・関東などからスギ花粉の飛散開始＞

スギの雄花は冬の寒さを経験することで休眠から目覚め(休眠打破)、寒さがピークを過ぎて暖かくなると花粉を飛ばし始めます。このため、冬の適度な寒さと春の気温の上昇が飛散開始のタイミングを左右します。

花粉の飛散開始時期に影響する2021年12月～2022年2月の気温は、北日本で平年並か高め、東日本で平年並かやや低め、西日本で低めの傾向となります。12月は西日本の低温傾向、北日本の高温傾向が顕著ですが、2月にかけて全国的にほぼ平年並の気温になる見込みです。

2022年の花粉の飛散開始時期は、過去10年の平均と比べると東日本は同程度、西日本と北日本は同程度か、やや早くなると予想しています。



2月上旬に九州、四国、中国や東海の一部、関東でスギ花粉の飛散が始まり、2月中旬には中国や近畿、東海の広範囲、また東北南部でも飛散が始まる見込みです。2月下旬になると北陸、3月上旬には東北北部でも飛散が始まる予想です。なお、詳細な飛散開始時期は1月下旬以降の気温動向に大きく左右されるため、最新の情報をご確認ください。

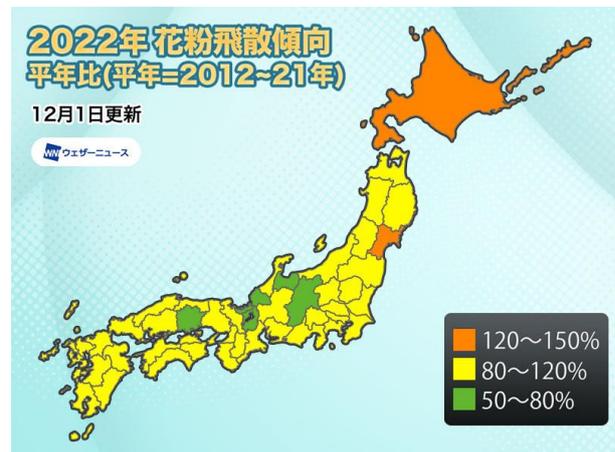
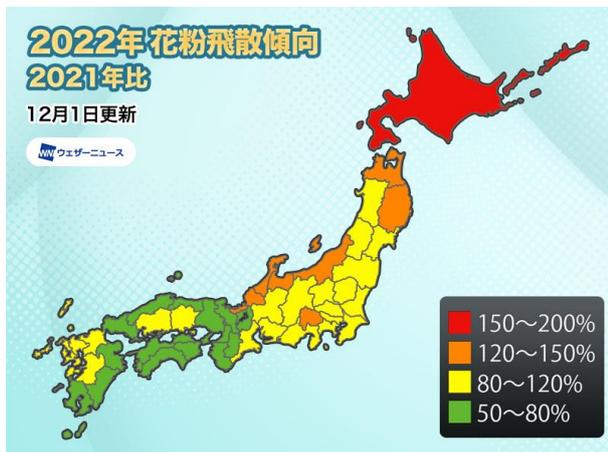
<飛散ピーク時期:スギ花粉は2月下旬~3月中旬、ヒノキ花粉は3月下旬~4月中旬>

九州では2月中旬~3月中旬に、中国・四国から関東は2月下旬~3月下旬にスギ花粉の飛散ピークを迎える予想です。北陸・長野や東北南部の飛散ピークは3月上旬~4月上旬、東北北部では3月中旬~4月中旬になるとみえています。3月後半に入るとスギ花粉の飛散は徐々に収まり、代わって西日本からヒノキ花粉の飛散が増えていきます。

ヒノキ花粉の飛散ピークは西日本・東日本の広範囲で3月下旬~4月中旬、北陸・長野は4月上旬~下旬、東北南部では4月中旬~下旬とみえています。ただ、北陸や東北南部ではヒノキの樹木が少ないため、スギ花粉に比べると飛散量が少なくなる見込みです。



<飛散量:広範囲で平年並も、北日本や北陸では2021年より多い予想>



2022年の花粉飛散量は2021年と比べると、北日本や北陸で多く関東や東海では同程度、西日本では少ないエリアが多い予想です。北海道では2021年比で約180%、東北北部や北陸では2021年比で約130%になる予想です。一方、2021年に飛散量が多かった西日本では2021年比で約75%になる見込みです。

平年(2012年~2021年の平均)との比較では平年並となるエリアが多く、全国平均では平年の98%程度になるとみえています。ただ、北海道では平年比140%と多くなる予想です。

## <雄花調査の結果>

ウェザーニュースでは 2021 年の夏の天候や年ごとの飛散量傾向、雄花調査の結果などを総合的に考慮して 2022 年の花粉飛散量を予想しています。本発表では 2021 年 10 月 5 日～12 日にウェザーニュースアプリのユーザーから寄せられたスギの“雄花リポート”を活用しています。雄花リポートを集計した結果、雄花の数が「昨年より多い」や「昨年と同程度」という回答がより多く寄せられ、「昨年より少ない」という回答は比較的少なくなりました。

本発表では、これらの雄花調査の回答を考慮し 2022 年の予想飛散量を前回発表から更新しています。

## ◆ エリア別の 2022 年花粉飛散傾向

### 北海道:飛散開始は 4 月下旬 飛散量は 2021 年比で大幅増

この冬から春の気温傾向は平年並か高くなる見込みで、4 月以降、寒さが緩むタイミングでシラカバ花粉が飛び始めます。花粉の飛散開始時期は過去 10 年と比べるとやや早いか同程度で、道南や道央など早い所では 4 月下旬、その他のエリアでも 4 月下旬から 5 月にかけてシラカバ花粉のシーズンに入るとみています。飛散ピークは道南や道央エリアでゴールデンウィーク前後、道北や道東では 5 月中旬で、6 月に入ると段々と飛散量は少なくなる見込みです。

シラカバ花粉の飛散量は平年の 140%、2021 年シーズンの 178%となる予想です。飛散量が多くなる予想ですので、例年以上にしっかりとした対策を行ってください。



### 東北北部：飛散開始は3月上旬 2021年比で飛散量は増

この冬の気温傾向は平年並か高くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散開始時期に影響が大きい2月から3月はじめの気温は、ほぼ平年並の予想。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、3月上旬に花粉シーズンに入ると予想しています。飛散ピークは3月中旬～4月中旬で、その後飛散量が段々と少なくなる見込みです。スギ花粉の飛散量は平年の100～110%、2021年シーズンの115～138%になる予想です。2021年より飛散量がやや増えて、花粉症の症状も悪化する方が多くなる可能性があります。一時的・局地的に大量の花粉が飛散することもあるので、しっかりと対策を行ってください。

なお、東北北部で春に多く飛散する花粉はスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。



### 東北南部：2月中旬から飛び始め 飛散量は2021年並

この冬の気温傾向は平年並か高くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べるとやや早いか同程度で、早ければ2月中旬にも太平洋側から花粉シーズンに入ると予想しています。その後3月上旬～4月上旬にスギ花粉、4月中旬～4月下旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の116～134%、2021年シーズンの105～114%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。一時的・局地的には大量の花粉が飛散することがあるので、しっかりと対策を行ってください。

なお、東北南部で春に飛散する花粉はスギがメインで、ヒノキ花粉は少ない傾向にあります。



### 関東・山梨:飛散開始は2月上旬 飛散量は2021年並～やや多い予想

この冬の気温傾向は平年並か低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、2月上旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の84～112%、2021年シーズンの95～123%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて関東では同程度でしたが、風向きにより花粉の飛散元となり得る関東近隣県で多くなっていると判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっています。一時的・局地的に大量の花粉が飛散することがあるので、しっかりと対策を行ってください。



### 北陸・長野:飛散開始は2月下旬 飛散量は2021年並～やや多い予想

この冬の気温傾向は平年並か低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、2月下旬と予想しています。その後3月上旬～4月上旬にスギ花粉、4月上旬～4月下旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の72～88%、2021年シーズンの119～149%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。2021年より飛散量が増えて、花粉症の症状も悪化する方が多くなる可能性があるため、しっかりと対策を行ってください。

なお、北陸で春に飛散する花粉はスギがメインで、ヒノキ花粉は少ない傾向にあります。



### 東海:飛散開始は広範囲で2月中旬 飛散量は2021年並の予想

この冬の気温傾向は平年並か低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、静岡県など早いエリアでは2月上旬、愛知県などでは2月中旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月下旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の91～108%、2021年シーズンの87～118%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。一時的・局地的に大量の花粉が飛散することもあるので、しっかりと対策を行ってください。



### 近畿:飛散開始は広範囲で2月中旬 2021年比で飛散量は減

この冬の気温傾向は平年より低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、和歌山県南部など早いエリアでは2月上旬、大阪など多くのエリアでは2月中旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の73～91%、2021年シーズンの66～78%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。2021年より飛散量がやや減る予想ですが、一時的・局地的には大量の花粉が飛散することがあるので、油断することなく対策を行ってください。



### 中国・四国:2月上旬から飛び始め 2021年比で飛散量は減

この冬の気温傾向は平年より低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べるとやや早いか同程度で、高知県や愛媛県、山口県では2月上旬、広島などその他のエリアでは2月中旬と予想しています。その後2月下旬～3月中旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の77～107%、2021年シーズンの57～84%になる予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。2021年より飛散量が減る予想ですが、一時的・局地的に大量の花粉が飛散することがあるので、油断することなく対策を行ってください。



### 九州:飛散開始は2月上旬 飛散量は2021年並～少ない予想

この冬の気温傾向は平年より低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べるとやや早いか同程度で、2月上旬と予想しています。その後2月中旬～3月中旬にスギ花粉、3月中旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の82～108%、2021年シーズンの64～116%になる予想です。南部では2021年より飛散量が減り、北部では2021年と概ね同程度の予想です。雄花調査では雄花の数が2021年シーズンに比べて同程度～多いと判断できたため、北部を中心に前回発表よりも予想飛散量が多くなっています。飛散量が減る予想のエリアでも一時的・局地的に大量の花粉が飛散することがあるので、油断することなく対策を行ってください。



**◆ 都道府県別の 2022 年花粉飛散傾向**

エリア	都道府県	花粉飛散量 (2021 年比)	花粉飛散量 (平年比)	花粉シーズン イン予想	花粉シーズン アウト予想
北海道	北海道	178%	140%	4 月下旬	6 月上旬
東北北部	青森県	124%	100%	3 月上旬	5 月上旬
	岩手県	138%	110%	3 月上旬	5 月上旬
	秋田県	115%	102%	3 月上旬	5 月上旬
東北南部	宮城県	114%	134%	2 月下旬	5 月上旬
	山形県	105%	119%	2 月下旬	5 月上旬
	福島県	105%	116%	2 月中旬	5 月上旬
関東・山梨	茨城県	95%	98%	2 月上旬	5 月上旬
	栃木県	99%	98%	2 月上旬	5 月上旬
	群馬県	115%	110%	2 月上旬	5 月上旬
	埼玉県	112%	103%	2 月上旬	5 月上旬
	千葉県	101%	102%	2 月上旬	5 月上旬
	東京都	115%	112%	2 月上旬	5 月上旬
	神奈川県	106%	104%	2 月上旬	5 月上旬
	山梨県	123%	84%	2 月中旬	5 月上旬
北陸・長野	長野県	119%	72%	2 月下旬	5 月中旬
	新潟県	130%	88%	2 月下旬	5 月上旬
	富山県	126%	75%	2 月下旬	5 月上旬
	石川県	149%	88%	2 月下旬	5 月上旬
	福井県	127%	75%	2 月下旬	5 月上旬
東海	静岡県	100%	91%	2 月上旬	5 月上旬
	愛知県	99%	91%	2 月中旬	5 月上旬
	岐阜県	118%	107%	2 月中旬	5 月上旬
	三重県	87%	108%	2 月中旬	5 月上旬
近畿	滋賀県	70%	73%	2 月中旬	5 月上旬
	京都府	71%	88%	2 月中旬	5 月上旬
	大阪府	70%	91%	2 月中旬	5 月上旬
	兵庫県	78%	81%	2 月中旬	5 月上旬
	奈良県	75%	83%	2 月中旬	5 月上旬
	和歌山県	66%	82%	2 月中旬	5 月上旬
中国・四国	岡山県	84%	77%	2 月中旬	5 月上旬
	広島県	81%	87%	2 月中旬	5 月上旬
	鳥取県	63%	91%	2 月中旬	5 月上旬
	島根県	60%	88%	2 月中旬	5 月上旬
	山口県	73%	100%	2 月上旬	4 月下旬
	徳島県	68%	94%	2 月中旬	5 月上旬
	香川県	65%	107%	2 月中旬	5 月上旬
	愛媛県	57%	104%	2 月上旬	5 月上旬
	高知県	60%	101%	2 月上旬	5 月上旬
九州	福岡県	109%	106%	2 月上旬	4 月下旬
	佐賀県	116%	105%	2 月上旬	4 月下旬
	長崎県	110%	108%	2 月上旬	4 月下旬
	大分県	74%	89%	2 月上旬	4 月下旬
	熊本県	85%	104%	2 月上旬	4 月下旬
	宮崎県	64%	82%	2 月上旬	4 月下旬
	鹿児島県	71%	105%	2 月上旬	4 月下旬
全国		94%	98%	—	—

※平年:天候の平年は 1991 年～2020 年の過去 30 年平均、花粉飛散量の平年は 2012 年～2021 年の過去 10 年平均

※飛散量:花粉観測機「ポールンロボ」が観測すると想定される花粉数。過去のポールンロボの観測データをもとに予想を算出

◆ 参考: ウェザーニュースの花粉飛散傾向と観測網について

ウェザーニュースでは、全国のウェザーニュースアプリのユーザーと花粉の雄花の生育状況を調査する「雄花調査」の結果および、これまで「花粉プロジェクト」で蓄積してきた花粉の観測データ、年ごとの飛散量傾向(“表年”“裏年”)、今夏の天候をもとに来シーズンの花粉飛散傾向を発表しています。

「花粉プロジェクト」は、花粉症の方々の役に立ちたい! という想いで、2005 年から実施しているユーザー参加型の取り組みです。全国のご家庭や企業などに、独自開発した花粉観測機「ポールンロボ」を約 1,000 台設置し、空気中に含まれる花粉をリアルタイムに自動観測します。

ウェザーニュースは、日本最大級の花粉観測網とこれまでの蓄積データを活かし、予報精度向上を目指すと共に、アプリの利便性を高め、花粉症の方が少しでも楽に過ごせるようサポートしていきます。



花粉観測機「ポールンロボ」設置イメージ